



1 2025

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪高松大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。希望の場合は下記まで申込み「点訳版(点字本)」 教区報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ 能登半島地震1周年・ファミリーの集い (2画)
 - ☆ 司牧者からの一冊 泉南教会50周年 (5画)
 - ☆ 阪神淡路大震災30周年 いずみブロック警備式 (3画)
 - ☆ 新福音化委員会より (6画)
 - ☆ 大阪北地区ファシリテーター養成コース (4画)
 - ☆ 大阪北地区しるきたブロック警備式 (6画)
 - ☆ 聖母被昇天修道会 終生誓願式 (7画)
- ☆ 豊中教会聖信式
- ☆ 広報委員会へのEメールアドレス = kyokuhou@osk.catholic.jp

「教区報」原稿・資料等の締切は前々月末です。

2025年新年メッセージ

聖年と万博の年 明けにけり

大阪高松大司教区大司教 前田万葉枢機卿

皆様、主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます

2024年の大きな課題であった大阪高松大司教区の新たな歩みは、シノドスという恵みの中で、「ロザリオの聖母」のご保護のもと聖霊によって導かれてまいりました。引き続き「交わり、参加、そして宣教する教会」となるよう熱心に取り組みましょう。

I 神の知恵、御言葉に生きる希望の巡礼者となりましょう。

イエス・キリストは神の子でありながら、へりくだって人間として生まれ、動物の餌桶に寝かされました。この象徴的な出来事は、御自分が人間を生かすパンとなり、人間と共に苦しみや喜びを分かち合い、「寄り添う」ために来られたことを示しています。また、イエスはその後、エジプトへの避難生活を余儀なくされました。これは、移住者や難民に対する共感と理解を教える重要な教訓でもあります。「飼いや葉桶飼と成りしか神の御子」

このように、聖書の言葉に教えられ生かされる体験は重要であります。例えば、「御言葉ですから網を降ろしてみましよう」(ルカ5:5)の言葉は、わたしが司祭になるときに選んだ座右の銘です。人事異動を命ぜられたときに、迷わず、「はい！」と答えて従うためです。この座右の銘に私はこの50年近く生かされ救わ

れ続けてきました。御言葉は生活の「知恵」でもある



アドリミナで教皇訪問

「不思議だね生きているの、御言葉は染みる心に縛るこの身を」と、短歌を口ずさむほどの影響力を感じたこともありました。どうぞ、良いご降誕祭と新年をお迎えてください。そして、イエスと共に歩むシノドスの希望の巡礼者となりましょう。

II 聖年と万博のお恵みに生きましよう

新年2025年は、カトリック教会の25年ごとの通常聖年です。特にゆるしと

和解のお恵みの年です。教皇フランシスコは大勅書「希望は欺かない」を発表し、「希望」が中心のキーワードであり、テーマを「希望の巡礼者」と設定いたしました。教区報12月号で、「聖年」についての情報とそのQRコードも掲載されました。また、聖年・万博委員会の「聖年巡礼手帳」も準備されています。特に、他人に譲ることもできる免償のお恵みに与るよう

III 「合理的配慮」と「シノダリティ」を推進いたしましよう

「障害者差別解消法」が2024年4月から改正・施行されて、民間事業者に

も「負担が重すぎない範囲」で、「合理的配慮」が義務化されました。例えば、聴覚障がい者のゆるしの秘跡を筆談で行うことは当たり前の配慮だと思えます。不可能な負担ではないでしょう。各責任者は、この「合理的配慮」に今後ますます責任をもって取り組まなければなりません。

教皇フランシスコの呼びかけの基本的姿勢の具体化を図りましょう。バリアフリー、手話や要約筆記、共助など「合理的配慮」を真剣に推進いたしましよう。

2025年通常聖年のテーマが「希望の巡礼者」ですから、巡礼指定教会への巡礼を障がい者と共に企画実践することをお勧めいたします。あるいは、障がい者たちが普段望んでも難しい海外巡礼や26聖人路巡礼などもあります。障がいのない人の支えを得ながら共に巡礼することは、大変ふさわしい聖年になると思えます。お互いにお恵みを倍増いたしましよう。



能登地震から1年



24年4月 がけが崩れ道路が寸断

能登半島地震では、住宅の倒壊、道路の陥没、土地の隆起や液化などが重なり大きな被害が出ている。能登半島の根元から先端へ行くほど倒壊した建物は多くなっている。震災当初は、人材や機材が現地向かうことが困難だったこともあり、倒壊した家屋の片づけもできない状況が続いた。現在は、復旧作業に取り掛かっているが、今も人材や機材の不足が続く。復旧に時間を要している。半島の根元の金沢市から先端の輪島市や珠洲市へ向か

「のと里山海道」が、震災当初から、道路の陥没や土砂災害により不通となり、2024年7月17日に全区間の対面通行が可能になるまで、一般道のみとなった。一般道でも土砂崩れなどから片側交互通行となっていた。そのため、金沢市から輪島市や珠洲市へ支援に行くためには、3時間から4時間の時間を要していた。現在でも、震災前の状態に復旧をしているわけではなく、各所では陥没した道路を迂回する形で仮道路を設置して通行している。震災前の道路は、亀裂や土砂崩れで通行できないことから、苦肉の策で、海岸隆起した土地の上に仮道路を設置して交通の再開を果たしているところもある。今までの被災地との大きな違いは、ライフラインの復旧に時間を要したことがあげられる。電気やガスに關しては早い段階での復旧となったが、水の復旧には約5カ月かかった。断水していたところは、トイレも流せないし、食器を洗うことも、お風呂に入ることもできないという状況下で生活を余儀なくされていた。現在は、仮の水道管を通して復旧しているところもあるので、今後、本復旧に向けて

誰ひとり、置き去りにしないように
声なき声も聞き、ともに歩みながら

2024年1月1日16時10分に石川県の能登半島地下16km、鳳珠郡穴水町の北東42kmの珠洲市内で内陸地殻内地震が発生した。地震の規模はマグニチュード7.6で、輪島市と羽咋郡志賀町で最大震度7を観測した。能登半島地震での死者は475人(12月6日現在)、住家被害は一部損壊を含めて139,690棟となっている。

の動きが加速されていく。被災地区のカトリック名古屋教区では、1月20日に「カリタスのとサポートセンター」を立ち上げて、幼稚園の水支援から始まり、週一回の炊き出し「じんのび食堂」の活動から、地域の

トセンターの重要な活動となった。水支援のつながりから、現在の仮設住宅での「じんのびカフェ」(お茶会)につながる。被災地にもある。

に根差した支援活動を始めていった。特に人が生きていくうえで大切な水の復旧には、震災から5カ月かかったこともあり、通水するまでの間、水が届いていない地域への支援は喜ばれ、次の活動へとつながるサポ



(右) 震災翌日から支援物資を運ぶ片岡義博神父。左側の瓦屋根が輪島教会跡地 (左) 24年12月 取り壊された輪島教会跡地

の対応は、名古屋教区のサポートセンターを中心に行われている。金沢教会に「カリタスのとサポートセンター」、七尾教会に「七尾ベース」を立ち上げて、輪島市や七尾市での活動を続けている。七尾市では、2024年10月11日民間災害ボランティアセンター「おらつちや七尾」が開設され、サポートセンターも開設メンバーとなり七尾市内での活動を行っている。輪島市においては、仮設住宅での「じんのびカフェ」(お茶会)を続けながら、被災者からのお困りごとに対応している。

ボランティアの募集は、第4フェーズ(1月6日~4月13日)の申込が始まり、今まで金曜から日曜だけの受け入れだったのを水曜日から日曜日まで(火曜日夕方ベース入り、日曜日活動終了)の受け入れを可能とした。また、日曜・月曜以外の5



24年11月 山から崩れてた土砂が家屋に流れ込んでいる

日間の間で、1泊から最大5泊まで可能となった。ボランティアにとつて、活動しやすくなっている。今回、募集の枠を広げたことは、それだけ被災地では支援を必要とされる方々がたくさんおられるとの想いからの受け入れの拡大となった。

能登半島地震への募金は下記2カ所で受付中

【名古屋教区】

教会関連施設とその被災者、および地域被災者支援
郵便振替口座：00810-5-50605
加入者名：カトリック名古屋教区
*通信欄に「のと地震」や「NOTO」などと記載

【カリタスジャパン】

「カリタスのとサポートセンター」を中心とした地域の被災者支援
郵便振替口座：00170-5-95979
加入者名：宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン
*通信欄に「能登地震」と記載

ボランティアの応募は Google フォームから申込

名古屋教区のウェブサイト「能登半島地震」からも確認できます。

募集要項▶▶▶



◀◀◀ 申込フォーム

ファミリーの集い ~みんなみんなよつといで

11月23日(土)、CASA FAMILIA ガザファミリー(青年活動の家)にて子育て世代の信徒が集うファミリーの集いが開催された。

もとは有志の母親で「ママの分かち合い」を行っていましたが、パパもママも、子どもも青年も、夫婦や一人でも、みんなが集まれる場になればと思い「みんなみんなよつといで」と名付け、今回は分かち合い・子どもミサ・夕食会を行いました。

分かち合いでは、子育てや教会のこと、日頃抱える悩みなどを分かち合いました。その間、青年たちが子どもと遊んでくれたため、話に集中できる貴重な時間でした。子どもたちも、子ども同士仲良くなったり、青年と子どもの鍊成会でお世話になった青年に会えたり、「また会いたい」と思う繋がりができたようです。



酒井司教と歓談する参加者たち

その後、酒井俊弘補佐司教様に子どもミサをあげていただきました。普段子どもを連れて教会に行けない家族も多い中で、「久しぶりにミサにあずかれて良かった」「子どもが多少騒いでも安心していられた」「鍊成会の歌が歌えて良かった」と、大人も子どもも恵みの時間となりました。酒井補佐司教様、お忙しい中ありがとうございました。ミサの後は、みんなで鍋を囲みながらおしゃべりをする楽しい時間となりました。

子育て世代の繋がる場として、不定期ではあるが今後も集まりを続けていきたいと思っています。集いのポスターは各小教区に配布されるので、周りに子育て世代の信徒がいたらぜひお声がけください。次回は2月11日、ミサはなく「分かち合い」の集いの予定です。(香里教会信徒 島内ゆりな)

阪神・淡路大震災30周年 ―がれきの中から生まれた希望と再生の教会

1995年1月17日、阪神・淡路大震災がもたらした未曾有の被害。その焼け野原で生きる意味を模索し、痛みを分かち合いながら人びとは助け合い、希望を育んだ。教会もまた、地域に根ざした新たな姿を模索し、「本当の教会」として歩みを始めた。この30年の軌跡を振り返り、そこに刻まれた思いやりと復興への道を見つめる。

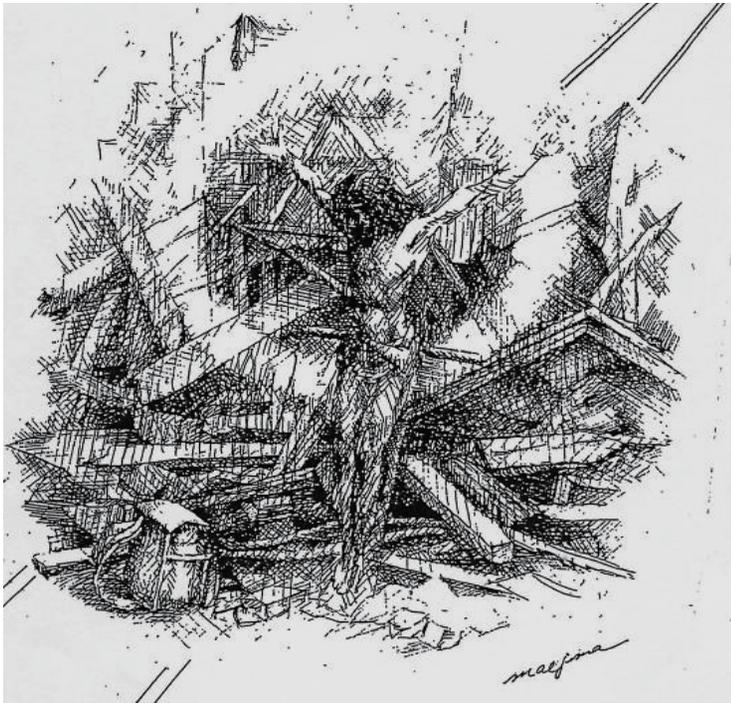
その日の明け方、司祭館がこれでもかと揺れ、壊れると思つた時揺れは収まった。真つ黒に焼けただれた鷹取の街は爆弾が落ちたような焼け野原だった。ヨハネ病院では患者さんが呆然と焼けた街を眺めていた。一面「がれき」の世界を、黙々と下を向いて歩く人びとは、まるで戦争の傷跡のように思えた。「がれき」の中に一輪の花がぼつぼつと供えられていた。遺族の方々が手を合わせておられた。悔しさと痛みが胸を突き刺した。「神戸には地震は

来ない」と、市民に防災意識は皆無だった。全てを無くした人びとはお互いを気遣った。その時「思いやり」が市民の約束であった。つらい思いをしてる人たちが優先し、自分を忘れ、手をさしのべた。以前から自治会活動があつた地域は、すぐに救援組織が生まれ、行政との対応は早かった。「行かねばならない」と飛び出した若者は多かった。教会は直ちに「現地救援本部」として彼らを受け入れ、彼らは暗い世界に笑い声と笑顔を注

いでくれた。次々と「仮設住宅」が建てられた。友愛訪問が続いた。次第に「あのとき何で死ななかつたのか、何のために生きるんやるか？」……「人間の問題」は依然としてある事に気づいた。「現地救援本部」は「社会活動神戸センター」と名称を変えた。震災以前から行われていた、弱い立場に置かれた人たちと「共に歩む」活動によって築かれていた人間関係や経験が、震災での対応に力を発揮した。

カット 前島智夫 (住吉教会)

「教会の建物はなくなつたが、本当の教会が生まれた」と言われながらも、教会のあり方が問われていた。キリスト者でない若者たちの内向きな教会に対する辛辣な意見は教会を変える斧となつた。被災した教会がその地域に合わせた新しい姿を模索した。鷹取教会は「多文化共生のまちづくり」をめざした。中央区の三教会はいずれも歴史と伝統ある美しい教会堂を持つていた。しかし震災を通して「交わり」という福音の意味を再発見し、「伝統や制度」にこだわるのではなく「わたしの教会」から「キリストの教会」へと生き直しを迫られ、一つの共同体になつ



た。ニコラ(福音宣教推進全国会議)の精神をもとに以前から数年にわたつて行われていた信徒による「生涯養成コース」は新たな教会の魂となった。大阪教区が目指す教会像として「新生計画」(1995)が打ち出された次第である。

(文 諏訪榮治郎 名誉司教)

岸和田地区 いずみブロック 合同堅信式 心、魂、力を尽くして あなたの神 主を愛しなさい



聖霊に導かれながら歩む受堅者たちの決意が、教会の光となる

11月3日(日)11時、酒井俊弘補佐司教と村田稔神父、ジュアン・ロムアルドウス神父、グティエレス・エルナンデス・イルヴィン・アロンソ神父により、いずみブロック合同堅信式が岸和田教会で行われた。中学生と成人の受堅者5人が、堅信の秘跡にあずかった。

この言葉を聞いた時に、「自分は神様に何を求められているのか?」自分自身の日常の行いを見返し、心を新たにしたいをいただくことができた。ミサ後のお祝いのパーティは、司教、司祭、受堅者、信徒の皆さんとの交流をメインに、たくさん料理を囲みながら、楽しむことができた。神様からの恵みと、この堅信式の準備に携わつた全ての人に感謝を致します。

【受堅者の決意表明】
いろいろな新しい言葉、主の教えを覚えるのはとても大変でしたが、勉強を終えて、今言えることは、確実に、神様がわたしたちの内に存在する事、神様が教えてくださった皆さんの事が、自分の生活に応用できる事、この二つの事に堅信の勉強を通じて気付かされました。
僕たちは「神様に愛された子ども」です。自分の内にある聖霊と神様を信じ、「キリストを証しする者」として、これからも毎週教会に行き、侍者などのミサ奉仕を続け、神様のみこころにかなう者となれるように頑張りますので、これからもよろしく願います。



岸和田教会紹介
☎ 072-4371-3308
◆住所 岸和田市筋海町18-17
◆守護 大天使ミカエル
◆設立年月日 1878年12月29日
◆信徒数 741人
◆ホームページ
◆特色
和泉教会・浜寺教会とブロックを組み、ともに交流会、黙想会や勉強会を行っています。また、外国人信徒委員会「共生委員会」を立ち上げ、その代表が小教区評議会のメンバーとなり、活躍してもらっています。

豊中教会堅信式

秋晴れの下、信仰を新たに

11月10日(日)、豊中教会で堅信式が行われた。地域を越えて信徒が集まり、信仰の絆を深める温かな時間となった。受堅者は4人で、ミサ後には多くの信徒たちとともに祝福と喜びを分かち合った。

耐震補強工事を終えた豊中教会の聖堂で堅信式が行われた。この日は秋晴れに恵まれ、集まった約120人の信徒が新しい聖堂の輝きの中で信仰のひとときを共有した。堅信式には中学生1人、小学生1人、成人1人(池田教会)、高校生1人(箕面教会)の計4人が参加した。

式は酒井俊弘補佐司教が主司式で、共同司式に野田正弘主任神父が加わった。ミサの30分前には酒井司教が教会入り口で信徒を出迎

える姿が見られ、参加者からは感激と感謝の声が上がった。

説教では、堅信が受堅者にとつてだけでなく、参加者全員にとつて意義深いものであると語られた。既に堅信を受けた人にとつては感謝を深める機会となり、未洗礼者にとつては信仰の道志す契機となるからだ。また、当日の聖書朗読に共通する「やもめ」が象徴する「必要なものすべてを手に差し出す姿勢」にも触れ、堅信が信仰の証しとして大

使徒職養成委員会

大阪北地区ファシリテーター養成コース

傾聴するファシリテーターを目指して

11月16日(土)大阪北地区ファシリテーター養成コースが門真教会で、36人が参加して開催された。

この企画は、北地区養成チームが、教会で行われる分かち合いを豊かなものにするためには、*ファシリテーターの養成が不可欠であるとの思いから、教区使徒職養成委員会に依頼し実現したものである。テーマは、ファシリテーターの役割の中でも重要な人の話を聴く「傾聴」に絞って行われた。



門真教会の聖堂でファシリテーター養成コースを開催

当日は、使徒職養成委員会に新福音化委員会のメンバーも加わり、ファシリテーターとして計6人が参加した。つどいは祈りの雰囲気大切に、潜心の祈りでスタート、プログラムの問いかけにも先ず個人が黙想し、そこから生まれた思いを分かち合う方式が取られた。

つどいは3セッションで構成され、第1は聞き手となるための学び、第2は傾聴の体験学習、第3は二つのセッションの体験から、望まれるファシリテーター像を全員が出し合い、その中から各自が大切だと思うものを投票、最終的に「分かち合える雰囲気づくり、祈りの心で聴く、人の話を楽しみにしながら聴く」など8項目が選出された。参加者は、この実りを今後の行動に繋げていくことを確認し、養成コースは盛会裡に終了した。

*ファシリテーターは議論を円滑に進め、発言を尊重しつつ、時間管理や参加者の心の変化に配慮する役割です。

(文 使徒職養成委員会 松本秀樹)

使徒職養成委員会の紹介

使徒職養成委員会は、委員長長和則神父と7人の信徒で活動してきましたが、このたび、徳島地区の八木信彦修道士がメンバーに加わり、文字通り大阪高松教区の委員会として新たな歩みを始めることになりました。主な活動は、研修会の開催、地区養成代表者会議の開催、酒井俊弘補佐司教様のカテキズム講座のお手伝い、ホームページへの養成プログラムの掲載です。



聖堂入り口



堅信式で絆を深める特別な日

切なものであることを強調された。

受堅者からも多くの感想が寄せられた。小学生は「勉強の内容が難しかったが、心の土台が固まったような気がする」と安堵の表情を見せた。中学生は「初聖体の時よりも内容が難しく初めはよく分からなかったが、だんだん内容が分かって理解していったし、堅信式でいろいろ質問されても、勉強していたおかげで答えられた」と語り、成人受堅者は「多くの人に支えられていることを実感した」と述べ、信徒の温かな祝福に感謝の意を示した。ミサ後はマリア館でお茶とお菓子を囲みながら懇親会が行われ、信徒たちが司教や司祭と親しく言葉を交わす時間となった。酒井司教も参加者と写真を撮った



庭園で4人の受堅者とともに

り、会話を楽しんだり、和やかな雰囲気の中で信仰の喜びが広がった。当日は堅信式に加えて七五三の祝福も行われ、子どもたちの成長を祈る声が聖堂に響いた。信徒同士が祝福し合い、絆を深める中で、この日が一人ひとりの心に特別な記憶として刻まれた。

豊中教会紹介

06-6852-4110

住所 豊中市本町6-1-6

守護アレキサンドリアの聖カタリナ

設立年月日 1939年11月25日

信徒数 1103人

ホームページ

◆ 特色 聖堂・ヨゼフ館(集会室)及び司祭館は、1939年にチエコ人建築家のヤン・ヨゼフ・スワガーの設計によって建てられた極めて貴重な木造和風の建築であり、国の登録有形文化財になっている。特に、聖堂は丸太柱、祭壇上部の折上格天井、組物付き祭壇などの特徴がある。2024年には大規模な耐震老朽化対策工事も完了した。庭は広く、植栽も多く、落ち着いた雰囲気、まちなかのシンボルにもなっており、豊中市の「とよなか百景」にも選ばれている。

◆ 特色 聖堂・ヨゼフ館(集会室)及び司祭館は、1939年にチエコ人建築家のヤン・ヨゼフ・スワガーの設計によって建てられた極めて貴重な木造和風の建築であり、国の登録有形文化財になっている。特に、聖堂は丸太柱、祭壇上部の折上格天井、組物付き祭壇などの特徴がある。2024年には大規模な耐震老朽化対策工事も完了した。庭は広く、植栽も多く、落ち着いた雰囲気、まちなかのシンボルにもなっており、豊中市の「とよなか百景」にも選ばれている。

春を告げるお祭りとしてセントパトリックデーを祝う習慣が、日本でも少しずつ広がっています。ハロウィンと同じように、おもに北米に住むアイルランド系の人びとの習慣が広まったのですが、彼らにとって聖パトリックは、自分たちの誇りであり偉大な恩人として、熱烈な敬愛の対象です。

教会の暦では3月17日に記念日を祝う聖パトリック(387-461年)は、辺境の地であったアイルランドに、初めてキリスト教をもたらした聖人です。強大なローマ帝国の力も、こ



「聖者と学僧の島」(トマス・カヒル著、青土社、税込2,860円)

「この一冊」
下瀬智久神父から

教区内の司祭が記憶に残る、また心に残った書籍を司祭紹介を兼ねて掲載。今回は、下瀬智久神父が担当。



【プロフィール】

下瀬智久神父
(レデンプトール会)



山口県出身。ピアノの調律師、TV番組制作の技術スタッフなどを経て入会。2023年司祭叙階。現在 吹田教会助任。

「この一冊」
「聖者と学僧の島」(トマス・カヒル著、青土社、税込2,860円)

こうした彼とその後継者たちによる宣教は、異教の人びとの習慣や心情に寄り添った、寛容かつ希望を与えるものでした。異教の祭りや風習、そしてさまざまな言い伝えや神話を、決して否定せず、むしろ愛情を持って文字に書き留めたのは、聖パトリックとその後継者たちによって建てられた修道院に住む学僧、つまり修道士たちであり、彼らの働きはケルトの神話やハロウィンのような習慣を現代に伝えました。さらには、まもなく訪れたローマ帝国の崩壊という混乱の時代にあつて、文明の火を守り伝える灯火の役割を、アイルランドは担うことにもなりました。

辺境の地から見た教会の歴史は、カトリックという言葉の持つ本来の豊かさや、懐の深さを感じさせてくれます。物語としてもとても読みやすい本ですので、ぜひ手に取って読んでみることをお勧めします。

次回はフェルナンド・マヨラル神父(スペイン外国宣教会)です。



泉南教会が50周年を迎え、前田万葉大司教を迎えた記念ミサが11月10日に荘厳に執り行われた。歴史を振り返り、未来への祈りと共に、信徒一人ひとりが愛と感謝の心を新たにする時間となった。



泉南教会創立50周年記念ミサ、信徒と共に信仰の歴史を祝う

11月10日(日)、泉南教会設立50周年記念ミサが前田万葉大司教の主司式と11人の神父による共同司式で行われ、100人を超える信徒が集った。説教では、俳句を交えながら、信徒や共同体がキリストという揺るぎない土台を基に、清めと愛の実践を続ける重要性が語られた。

大司教は「泉南の五十路 勤労感謝の日」「泉南の五十路の水や冬ぬくし」という自作の俳句を引用しつつ、イエス・キリストが語った「神殿の住まい」の本質について解説した。「神殿とは建物だけではなく、信者自身や共同体をも指す。洗礼の恵みを思い出し、常に清めが必要だ」と強調。泉南教会は場所こそ移転したものの、キリストを土台とする信仰の核心は変わらず、ベトナム難民センター開設など愛を実践したと述べた。

その後、説教の結びでは「冷たい冬の水に清められることで、心温まる愛の泉が湧き出ることを願う」と信徒たちに実践的な愛の重要性を改めて訴えられた。

参加者からは、「荘厳なミサの中で過去を振り返りつつ、新しい一歩を踏み出す決意ができた」という声や、「大司教様と神父様方が祭壇を囲む光景が最後の晩餐を思わせる感動的な瞬間だった」との感想が聞かれた。また、50年の歴史に感謝し、これからの教会を神様に委ねる気持ちを新たにしたいという。

当日は天候が心配されたが、晴天に恵まれた。多くの他教会からの訪問者もあり、神父たちの笑顔と信徒たちの交流が印象的な記念日となった。準備を担ったシスターたちの尽力に感謝しつつ、参加者全員で教会



1974年7月14日、「聖パウロ三木」を守護聖人にいただき「カトリック泉南教会」が献堂されました。

初代の主任司祭はチェザル・タルタリ神父で、聖ザベリオ宣教会の強力なご支援と旧大阪大司教区の福音宣教活動の実践により地元信徒の長年の願いがかなえられたのです。

教会は周囲の環境変化と手狭になった初代教会に代わって1989年4月16日に現在の地に新しく献堂されました。以降歴代司祭と多くの信徒総動員による園庭の手作業で緑化活動、地域に向かって発信した市民クリスマス、バザーの開催など宗派を超えての部外老若男女の積極的な参加を受けて、カトリック泉南教会は信徒の心のより所として発展し、今日に至っています。

(カトリック大阪大司教区再宣教150年記念誌 参考)



の50年を祝う一日となった。泉南教会はこれからも信仰の灯を絶やさず、新しい時代に向けて歩み続けるだろう。

新福音化委員会より

シノドスの教会に向けて、わたしたちの共同霊的識別を生きる

シノドスの作業は、10月26日（土）、最終文書の採択をもって終了した。最終文章では、第二会期に参加した参加者たちは、カトリック教会がよりシノドス的な（ともに歩む）教会になることを願っており、宣教と司牧への広範な参加を促さなければならぬと指摘している。

「世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会」の第二会期は、最終文書の採択をもって終了しました。10月2日から始まった第二会期は、「宣教するシノドスの教会になるには」を命題に、討議要綱に沿って進められました。

傾聴の実践

教皇はシノドスの作業の完了にあたりすべての関係者に挨拶を送られた。この最終文書は、今の時代に「ともに歩む教会」になるためにはどうしたらよいかをより良く理解するために、神の民の声に努めて耳を傾けてきた、少なくとも3年にわたる年月の実りであると指摘し、「兄弟姉妹たちを力づけてやりなさい……わたしの羊を飼いなさい」と絶えず話しかけられるイエスに応えるために、教皇自身も傾聴の実践を必要としていと語られました。

教会の宣教の指針

最終文書の中には、さまざまな大陸、多様な状況における教会の宣教への指針となりうる、非常に具体的



な示唆が書かれていると教皇は指摘されています。そのため、この最終文書をすぐに公開し、神の民に手渡すことを通して、これまで行ってきたシノドスの歩みの価値を心に留めたいと言われしました。最終文書を神の民への賜物として、地方教会において文書にある内容を人びとの手に届くものとするのは参加者の皆さんの役割であると強調されました。さらに教皇は、経験に基づき証しを伴わない文書は価値を失ってしまうと指摘し、この文書が実質を失わないようにと注意を喚起されました。

平和は傾聴と対話、和解

暴力、貧困、無関心などの特徴を持つ世界のあらゆる地域から集められた私たちは、失望させることのない希望をもって、各自の心に授けられた神の愛のうちに一致し、平和をただ夢見るだけでなく、そのために全力を尽くさなければならぬと呼びかけ、平和は傾聴と対話、和解によって実現するものと励まされました。

これらすべては、調和を作り出し、調和そのもので

分かち合いの研修会

なお、大阪高松教区シノドス担当チームでは、2月11日（火曜日、祝日）にサクラファミリアでこの第二会期を学び、分かち合いの研修会を企画しています。パチカンのシノドスに参加したベリス・メルセス宣教修道女会のシスター弘田しずえさんを招きます。シスター弘田は、カトリック正義と平和協議会専門委員、戦争と平和の女性人権基金理事などをなさっており、メルセス会の日本管区長世界の総長も担ってこられた方です。お話しは、明瞭で力強いので、参加することで元気を頂けると思われます。参加される方は、教区事務局あるいはシノドス担当チーム代表のヌノ・リマ神父（玉造教会）に申し出てください。

(シノドス担当チーム 吉村信夫)

大阪北地区 しろきたブロック 今市、門真、大東 合同堅信式 堅信式の祝福、新たな信仰の一步



長崎壮神父、尹相鎬神父、ハイメ・シスネロス神父が共同司式を担当した。式には88人が参加し、厳かな雰囲気の中、信仰を深める時間となった。説教では、「お言葉ですから網を降ろしてみましよう」というイエスの呼びかけに従うことの重要性が語られた。大司教は、「みことばを実際に生きることが大切だ」と述べ、短歌も披露した。「不思議だね生きてるのか御言葉は染みる心に縛るこの身を」といった言葉は、多くの人の心に響いた。受堅者たちは、それぞれの教会での勉強会や指導リーダーのサポートを受け、この日を迎えた。式の



大司教から祝福を受ける受堅者

11月3日（日）、大阪北地区しろきたブロック（今市、門真、大東教会）の今市教会で堅信式が行われた。9人の受堅者が信仰の成熟を確認し、新たな歩み始めた。前田万葉大司教の司式のもと、心温まる説教が印象的な一日となった。

進行中、受堅者は最前列に座り、その後ろに代父母が着席した。共同祈願では、3教会の受堅者と指導リーダーが祈りを捧げた。式の後にはパーティーが開かれ、堅信の喜びを分かち合った。受堅者からは、「多くの人に支えられて堅信式を迎えられた」、「長い準備期間を経て成長を実感した」など、感謝の声が聞かれた。特に、小さいころから教会に通っていた受堅者は、「堅信の報告を曾祖父母にできたことが嬉しかった」と話していた。堅信式を通じて、しろきたブロックの教会全体が一つになり、信仰の深まりと結束を改めて確認する機会となった。これからも地域に根ざした活動を続けていくことが期待される。

今市教会紹介

- ☎06-6951-5018
- 住所 大阪市旭区太子橋1-1-27
- ◆守護 マリアの汚れなきみ心
- ◆設立年 1951年12月8日
- ◆信徒数 688人
- ◆ホームページ



◆おすすめの店

ベトナム出身の、ゲンさん（信徒）がベトナム料理の「ドンクエー」を1年前より開店しています。本場のベトナム料理が楽しめます。

☎06-7860-4839
定員40人
定休日 月曜日
京阪電車「土居」駅北側の商店街入ってすぐ右側です。



教会に隣接して「認定こども園あけのほし幼稚園」があり、日曜は信徒の駐車場として使用できます。また、教会学校に加え、今市教会スカウト育成会が、ガールスカウト・ボーイスカウト活動を支援しています。

◆教会の特色と特徴

今市教会は聖アントニオ・マリア・クラレットにより1849年に創立されたクラレット宣教会が、1951年に来日し設立した教会です。2階にある聖堂正面の「復活のキリスト」と「聖霊降臨」を表すレリーフが特徴です。聖堂正面左側にマリア像が、その奥に聖アントニオ・マリア・クラレット像が置かれています。

聖堂の壁には、ステンドグラスで十字架の道行きの14場面が飾られています。15番目の場面が正面の復活です。レジオ・マリエ（2つのプレジディオム）、クラレット信徒運動の会（クラレット宣教会創立者アントニオ・マリア・クラレットの霊性を学ぶ会）、朝拝会、それと文化教室の活動を行っています。



聖母被昇天誓願式 誓願と感謝が響き合う聖なる日

11月9日、聖母被昇天修道会は終生誓願宣立、誓願宣立60年、学院創立70周年の閉年と三つの喜びを重ね、酒井俊弘補佐司教の主司式によるミサが執り行われた。

聖母被昇天修道会にとって特別な日になりました。2人の姉妹の終生誓願宣立及び2人の姉妹の誓願宣立60年記念、また、学院創立70周年の閉年と喜びが重なりました。大阪高松大司教区の酒井俊弘補佐司教様(主司式)、他9人の神父様方によるミサの中で、誓願は英語・ベトナム語で、また誓願更新はポルトガル語・日本語で宣立されました。学院聖堂では、箕面教会の侍者も活躍し、さらに学院のハンドベル・聖歌隊も加わり、荘厳で華やかな式となりました。学院の卒業生、アサンプション国際の生徒、教職員、大阪と高松の教会関係者他、多くの方々が参加され、共に喜びと感謝を分かち合いました。修道会にとって新たな希望の歩みの第一歩となりました。



聖母被昇天修道会、新たな歩みを祝う

被爆者の証言が紡ぐ平和への道

2024年、ノーベル委員会(ノルウェー)は、ノーベル平和賞を「日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)」に授与する決定を下した。その理由は、広島・長崎の被爆者たちが自らの体験を基に核廃絶への草の根運動を展開し、核兵器の非人道性を世界に訴え続けた功績にある。被爆者の証言は核兵器の恐ろしさを示すだけでなく、「核のタブー」と呼ばれる国際的な規範の形成に大きく貢献した。特に注目すべきは、彼らの活動が戦争後も継続してきたことである。苦痛や恐怖を乗り越え、核のない未来を目指して証言を行い、国際会議で核軍縮の必要性を訴えてきた。

被爆者の証言と核廃絶への努力を評価し、日本被団協がノーベル平和賞を受賞

ノーベル委員会が強調したのは、この80年間、戦争で核兵器が再び使用されなかった事実に対する日本被団協の貢献である。しかし現代では、核兵器の近代化や使用の脅威が高まっている。来年で原爆投下から80年を迎える中、被爆者の証言を受け継ぎ、核廃絶を訴える新しい世代の役割がますます重要である。ノーベル平和賞の授与は、核兵器のない平和な未来を実現するための希望を、再び私たちに投げかけている。

ノーベル平和賞を受賞して

ノーベル平和賞の発表をテレビで見ていたとき、



焼き場に立つ少年

日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)と聞いて、驚くと同時に、地道に活動してきた成果が実ったのだと思った。核兵器が再び使用されないように、原爆がいかに恐ろしいか、8月上旬に各地で広島長崎の惨状の写真や絵画を展示している。私は神戸の会に属しているが、「原爆と人間」というタイトルで、毎年1週間「デュオギヤラリ」(JR神戸駅地下街)で、写真・絵画展を開催している。2年前からは、高校生たちが被爆者から話を聞いて、当時の惨状を時間かけて絵にしたものを展示するようになった。毎年見に来る人から「戦争の記憶が風化しているのだから、若い人たちに伝えてほしい」などの感想があり、中学生が展示を見て涙を流していたこともあった。被爆者が体験談をあちこちで出前しているが、語ることでできる人たちは次々と鬼籍に入ってしまう、3歳以下の被爆者たちは惨状の記憶はほとんどない。広島市の爆心地から3キロ余りのところにいた私は生後4か月で、当時の記憶は全くない。被爆者の平均年齢は86、7歳になった。日本政府に核禁止条約の批准を求める署名も、展示会場で行っている。日本に来た時、教皇フランシスコが葉書にしてくれた、弟をおぶった10歳の焼き場に立つ少年のパネル写真もいつも展示している。少年の裸足の足は浮腫。…生きのびられたのだから。21世紀になっても、世界のどこかでいつも戦争をしている。物があふれるほど豊かでないでいい、平和であってほしい。

(文) 後恵子 芦屋教会

訃報

Sr シモン 勝谷久子 (援助修道会) は、2024年11月3日、大腸癌のため甲病院で帰天。89歳。広島県出身。奉獻生活61年。



1963年初誓願。東京ありの町の保育園。大分坂ノ市幼稚園など、幼児教育に奉仕した後、フィリピンで基礎共同

体作りの協力者として数年派遣。東京北千住では地域に根差した市民活動、環境問題、孤獨な老人のためにヘルパーとして関わった。小さな人びとと共におられるイエスを探して最後の派遣先となった大阪西成釜ヶ崎に16年。「釜」に生きる人びととそこの仕事を愛し、屈託のない明るい性格が「おっちゃんたち」からも慕われた。

大阪のカトリック病院
ガラシア病院

特徴的な医療
ホスピス・糖尿病内科
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父

看護師 募集中

〒562-8567 箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345

医療法人ガラシア会

ひとりで悩まないで
～私たちに聴かせてください～
カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント相談窓口

※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時～午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

2025年キリスト教一致祈禱週間 共同礼拝「このことを信じるか(ヨハネ 11・26)」

◆和歌山

日時 1/18(土)15:30~16:45
場所 カトリック和歌山 紀北教会屋形町聖堂

◆大阪

日時 1/23(木)18:30~19:45
場所 大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂

◆神戸

日時 1/24(金)18:30~19:45
場所 カトリック神戸中央教会

主催 カトリック大阪高松大司教区・日本福音ルーテル教会・日本聖公会・日本基督教団
問 エキュメニズム委員会 06-6941-9700
irrd-ecm@ostk.catholic.jp

2024年度諸宗教対話活動
◆第2回「神道との対話：神社訪問」

日時 1/25(土)14:00~16:00
場所 難波八阪神社・大阪市浪速区元町2-9-19
お話 粟辻 勲宮司

◆第3回 諸宗教シンポジウム

⑤「他宗教の方から学んだ事」
日時 2/15(土)17:15~20:00
場所 大阪高松大司教区 本部事務局
登壇者 ソットコルノラ・フランコ神父・西村恵信住職・三橋 健教授

主催 諸宗教対話委員会
問 06-6941-9700
irrd-ecm@ostk.catholic.jp

福者ユスト高山右近殉教者 ◆列聖祈願のつどい

日時 2/1(土)13:30~16:30
場所 サクラ ファミリア
講師 川村信三神父(イエズス会)
共催 列聖推進委員会/右近と歩む会
問 06-6941-9700

信仰養成連続講座◆カテキズムの学び

当面休止
主催 使徒職養成委員会
問 06-6941-9700

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をさく
日時 2/25(火)18:00~19:30
(夜の部)・2/26(水)10:30~12:00(昼の部)
お話 ジャンマリー・カゼンガ神父(堺ブロック・淳心会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「主日のみ言葉に生かされる」
日時 1/20・2/10・3/10・4/14(月)13:30~15:00(1~4月開講)

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべ イエス』
日時 1/15(水)10:30~12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 1/13(月)・1/20(月)17:00~18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を
日時 毎月17日19:00~19:30

問 サクラ ファミリア
06-6225-8871
f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会
日時 2025年2/1(土)~2/22(土)16:30~18:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 0798-22-1649

六甲教会
日時 2025年2/2(日)~2/23(日)4回 14:00~16:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 078-851-2846
renraku@rokko-catholic.jp
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家
◆日帰り黙想会
日時 1/23(木)・1/24(金)10:00~15:30
指導 染野治雄神父(1/23) 山内十束神父(1/24)
参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会
日時 1/17(金)17:00~1/18(土)15:30
指導 染野治雄神父
参加費 ¥9,000

◆カトリック教会のカテキズム
日時 1/15(水)10:00~12:00
指導 染野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本
日時 1/15(水)10:00~12:00

指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

◆新約聖書の世界への旅
日時 第1(月)19:00~
指導 山内十束神父

問 宝塚黙想の家 0797-84-3111

講座・研修会

講座◆小さくされた人々のための福音
日時 第3(金)10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
主催 神戸国際支縁機構
問 岩村 070-5045-7127

集い

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い
日時 第4(土)14:00~16:00
場所 大阪YCWセンター(またはZoom)
問 レネ神父・水元 072-232-8063
osakaycw@gmail.com
http://www.ycw.jp/

要約筆記グループ「エフファタ！」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア
日時 第2(水)10:00~12:00
場所 教区本部事務局 1階会議室
問 障がい者委員会
dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い
いつ来てもウェルカム
当日キャンセルOK
日時 第3(日)14:00~16:00
場所 姫里集会所
参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)
申込 吉川まで
問 078-583-2525
yassan.yoshikawa@nifty.com

力障連大阪フレンドリー ◆点字部の勉強会
対象 パソコン点字に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時 第2(火)13:30~15:00
場所 姫里集会所(奇数月) 北須磨教会(偶数月)
申込 笠松まで
問 090-5661-4324
072-722-0271
kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣
対象 手話に興味をお持ちの方 ※手話講習会ではありません
日時 第1・3・5(水)10:00~14:00
場所 姫里集会所
問 障がい者委員会
dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い ◆大阪梅田教会
日時 1月お休み
問 高塚 06-6921-0693
◆加古川教会
日時 第3(火)13:00~14:30
問 森田 079-426-5704

行事等日程表 (2025年1月)
1 水 神の母聖マリア 世界平和の日
5 日 主の公現
6 月 (教区本部事務局2025年始業)
9 木 [常任司教委員会]
12 日 主の洗礼
15 水 10時 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会
17 金 教区新生の日(1・17)
18 土 11時 教区宣教司牧評議会
19 日 キリスト教一致祈禱週間(~26日迄)
26 日 神のごとばの主日 世界こども助け合いの日(献金)
27 月 教区司祭修養会(~31日迄)
28 火 聖トマス・アクィナス司祭教会博士 前田万葉大司教霊名

1月司教予定
・1/6~8 長崎・福岡・広島出張(†M)
・1/11 大阪修女連総会ミサ(†M)
・1/12 中島町教会ミサ・司祭館落成式(†M)
・1/17 神戸中央教会 阪神・淡路大震災30年追悼ミサ(†M)
・1/23~30 広報担当者の聖年の集い(ローマ)(†S)
†M=前田万葉大司教
†S=酒井俊弘補佐司教

リスナーの方 募集中! 小さきテレジアの会
「大阪高松教区報」を音訳し、データCDに録音して、大阪高松教区の視覚障害者の方々にお送りしています。データCDは、プレストーク・パソコン・MP3対応のCDラジカセで聞くことができます。
音訳というのは、一般に認識されている朗読とは、すこし違います。書かれている内容を正確に、あまり感情をこめすぎずに、ニュースを読むアナウンサーのイメージです。
問合せ 夙川教会小さきテレジアの会
0798-22-1649
0798-34-3585
担当: 音訳(デイズ)山口

案内・報告
2024年度冬人事異動
※()内は現任地。Bはブロッック
【姫路地区】
▽Fr 大久保武(姫路西B共同)は大阪南地区 藤井寺教会主任
【阪神地区】
▽Fr ティアゴ・ダ・コンセイサオ・エステヴァオ・トマス S.M.B.N.(武庫之荘教会協力)は岸和田地区 紀泉B協力
【香川地区】
▽Fr 赤波江豊(四国カトリック会館居住)は愛媛地区 宇和島・八幡浜教会主任
【愛媛地区】
▽Bp 諏訪榮治郎(南予B担当)は阪神地区 武庫之荘教会主任

はばたき
私の「当り前」はあなたの「当り前」ではない、強烈に感じた一年でした▼教区報が誕生して、まもなく一年になります。「時報」と「教区報」、歴史、編集方法、配布、全く違う二誌を統合するのは、予想通り困難でした▼当り前は当り前ではなく、それが原因で読者から鋭い指摘をいただきました。次号にお詫びの掲載が続き、胸が痛みました▼一方で、これまでになく「教区報」に対する期待と関心の表れと感じています▼新年にあたり、お詫びがないのが当たり前の紙面づくりに注力して参ります。(広報委員会 川柳裕明)

2025年度 大阪高松教区 年間予定

— 2024年11月30日現在 —

緑……典礼歴(祝祭日)

赤……祈願日など

黒……教区行事・その他

※予定は変更になる場合があります。

1 月	
1 水	神の母聖マリア 世界平和の日
5 日	主の公現
6 月	(教区本部事務局 2025年始業)
9 木	[常任司教委員会]
12 日	主の洗礼
15 水	10時半 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会
17 金	教区新生の日 <1・17>
18 土	キリスト教一致祈禱週間(～25日迄) 11時 教区宣教司牧評議会
26 日	神のことばの主日 世界子ども助け合いの日(献金)
27 月	修養会(～31日迄)
28 火	聖トマス・アキナス司祭教会博士 前田万葉大司教霊名

2 月	
1 土	福者ユスト高山右近殉教者 列聖祈願のつどい
2 日	主の奉献
3 月	福者ユスト高山右近殉教者
5 水	日本26聖人殉教者
6 木	[常任司教委員会]
9 日	新教会建設献金の日(献金)
11 火	世界病者の日
12 水	10時半 顧問会・責任役員会
17 月	[定例司教総会](～21日迄)
26 水	10時半 司牧者集会

3 月	
5 水	灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)
6 木	[常任司教委員会]
17 月	日本の信徒発見の聖母
19 水	聖ヨセフ
20 木	教区召命の日
21 金	大阪高松教区司教座聖堂献堂(玉造) 性虐待被害者のための祈りと償いの日
25 火	神のお告げ
26 水	10時半 司牧者のための祈りと ゆるしの秘跡のつどい 14時 顧問会・責任役員会
31 金	教区会計年度末

4 月	
3 木	[常任司教委員会]
13 日	受難の主日(枝の主日)
16 水	11時 聖香油ミサ 司祭経年祝 (カテドラル)
17 木	聖木曜日(主の晩さん)
18 金	聖金曜日・主の受難(大斎・小斎) 聖地のための献金
19 土	聖土曜日
20 日	復活の主日
23 水	10時半 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会
27 日	神のいつくしみの主日

5 月	
8 木	[常任司教委員会]
11 日	世界召命祈願の日
21 水	10時半 甲山墓参
25 日	世界広報の日(献金)
28 水	10時半 顧問会・責任役員会



6 月	
1 日	主の昇天
5 木	[常任司教委員会]
8 日	聖霊降臨の主日
9 月	教会の母聖マリア 管区司牧者研修会(～11日迄)
15 日	三位一体の主日
16 月	[定例司教総会](～20日迄)
22 日	キリストの聖体
24 火	洗礼者聖ヨハネの誕生
27 金	イエスのみ心
28 土	11時 教区宣教司牧評議会
29 日	聖ペトロ 聖パウロ使徒 パウロ酒井俊弘補佐司教霊名 聖ペトロ使徒座への献金

7 月	
1 火	福者ベトロ岐部司祭と187殉教者
3 木	[常任司教委員会]
9 水	10時半 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会
23 水	10時半 司牧者集会



8 月	
3 日	カンボジア教会の日の献金
6 水	主の変容 平和旬間(～15日迄)
9 土	青年と子どもの錬成会 (予定～11日迄)
12 火	教区教員養成会(～13日迄)
15 火	聖母マリアの被昇天 共同司教座聖堂献堂(桜町) (教区本部事務局 休業)

9 月	
1 月	すべてのいのちを守るための月間 すべてのいのちを守るための基金 (献金)(～10/4迄)
7 日	被造物を大切にす世界祈願日
10 水	10時半 顧問会・責任役員会
11 木	[常任司教委員会]
14 日	十字架称賛 祖父母と高齢者のための世界祈願日
23 火	14時 病者・障がい者とともに 歩むミサ(桜町教会)
24 水	教区健康の日
28 日	世界難民移住移動者の日(献金)

10 月	
2 木	[常任司教委員会]
7 火	ロザリオの聖母 大阪高松教区 守護聖人
8 水	10時半 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会
19 日	世界宣教の日(献金) INTERNATIONAL DAY
22 水	10時半 司牧者集会
26 日	教区典礼研修会

11 月	
1 土	諸聖人
2 日	死者の日
3 金	11時 教区納骨者および死者 祈念ミサ(カテドラル)
6 木	[常任司教委員会]
9 日	ラテラノ教会の献堂
10 月	聖大レオ1世教皇教会博士 レオ池長潤名誉大司教霊名
12 水	10時半 顧問会・責任役員会
16 日	貧しい人のための世界祈願日 聖書週間(～23日迄)
18 火	日韓司教交流会(～20日迄)
23 日	王であるキリスト 世界青年の日
26 水	10時半 桜町墓参

12 月	
4 木	[常任司教委員会]
7 日	宣教地召命促進の日(献金)
8 月	無原罪の聖マリア
10 水	10時半 顧問会・責任役員会
25 木	主の降誕 (教区本部事務局 休業)
26 金	11時 みことばの祭儀
27 土	聖ヨハネ使徒福音記者 使徒ヨハネ諏訪榮治郎名誉司教霊名
28 日	聖家族 2025通常聖年閉幕ミサ
29 月	(教区本部事務局年末年始休業 2025.12/29～2026.1/5)

2026年 1 月	
1 木	神の母聖マリア 世界平和の日
4 日	主の公現
6 火	(教区本部事務局2026年始業)
8 木	[常任司教委員会]
11 日	主の洗礼
14 水	10時半 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会
17 土	教区新生の日 <1・17> 11時 教区宣教司牧評議会
18 日	キリスト教一致祈禱週間 (～25日迄)
25 日	神のことばの主日 世界子ども助け合いの日(献金)
26 月	修養会(～30日迄)
28 水	聖トマス・アキナス司祭教会博士 トマス・アキナス前田万葉大司教霊名

2 月	
2 月	主の奉献
3 火	福者ユスト高山右近殉教者
4 水	10時半 顧問会・責任役員会
5 木	日本26聖人殉教者 [常任司教委員会]
7 土	福者ユスト高山右近殉教者 列聖祈願のつどい
8 日	新教会建設献金の日(献金)
11 水	世界病者の日
16 月	[臨時司教総会(～20日迄)]
18 水	灰の水曜日 四旬節愛の献金(四旬節中)
25 水	10時半 司牧者のための祈りと ゆるしの秘跡のつどい

3 月	
5 木	[常任司教委員会]
6 金	性虐待被害者のための祈りと償いの日
19 火	聖ヨセフ
20 金	教区召命の日
21 土	大阪高松教区司教座聖堂献堂(玉造)
25 水	神のお告げ 10時半 顧問会・責任役員会
29 日	受難の主日
31 火	教区会計年度末

